

研 修 科 目	ファシリテーション研修
研 修 目 的	市民参加の推進に向け、市民との未来像・課題の共有や、市民の市政への参加の推進、市民のまちづくり活動の活性化を目的に、市民との「対話」を通じた多様な意見を引き出すための考え方・手法を学ぶとともに、課題を捉える力やファシリテーションを行う実践的な能力を養成する。
到 達 目 標	① 「対話」により多様な意見を引き出すための考え方・手法を習得する。 ② ①で引き出した多様な意見の中から課題を捉え、「問い」を立てることができる。 ③ 会議やワークショップ等の場でファシリテーションを行うことができ、自身でもファシリテーションを行う場を創出することができる。
受 講 対 象 者	全職員
受 講 予 定 人 数	約30名
研 修 日 数 ・ 時 間 研 修 回 数	全4日間程度を想定 (研修の日数や講義時間、間隔等については、提案内容による)
実 施 予 定 時 期	令和7年6月～9月を想定(提案内容による)
研 修 方 法	講義、演習
研 修 内 容	<p>以下の内容について、講義と演習を交えながら実施すること。</p> <p><u>1 「対話」について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「対話」の目的と必要性 ・ 「対話」により意見を引き出す方法 ・ 「対話」の場をつくる技法(例：ワールドカフェなど)と参加のハードルを下げる工夫 <p><u>2 「ファシリテーション」について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ファシリテーションの目的と必要な要素 ・ ファシリテーターの役割と必要な能力 ・ 「問い」の立て方 ・ ファシリテーションを実践する具体的な技法(例：傾聴などの対人関係の技法や議論を構造化する技法、合意形成の技法など) <p><u>3 ワークショップ等の設計・実践</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受講者自身によるワークショップ等の設計 ・ 設計したワークショップ等の実践 ・ ワークショップ等の実践内容に対するフィードバック <p>【留意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習について、グループワークやロールプレイング等の手法を用いた実践的な内容にすること。 ・ 「受講者自身によるワークショップ等の設計」について、テーマ設定の方法やグループ分けなどの実施単位は提案内容による。 ・ 「ファシリテーションを実践する具体的な技法」について、課題解決型

	<p>の技法だけでなく、未来志向の議論を促す技法も含んだ内容にすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ワークショップ等の実践内容に対するフィードバック」について、研修終了後も業務の中でファシリテーションの能力を実践的に発揮できるようにフォローアップすること。
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市の市民参加の方向性を踏まえた内容を提案すること（以下リンクに掲載している「第3期京都市市民参加推進計画」参照）。 https://www.city.kyoto.lg.jp/digitalbook/page/0000001352.html ・ 契約開始後、本市と調整のうえ速やかに研修実施スケジュールを策定・提出すること。 ・ 研修の日時、場所、各日に実施する概要については、本市と協議のうえ、5月末日までに確定させること。 ・ 研修で実施する内容については、本市と協議のうえ、実施日の2週間前までに報告し研修に使用する資料を提出すること。 ・ 研修会場については本市が手配するため、委託料には含まない。 ・ 研修に必要な付箋、模造紙等の消耗品については、本市が手配するため、委託料には含まない。
上 限 金 額	1, 4 0 0, 0 0 0円